

アンゴラ国
「ルアンダ医療専門学校拡充計画」
予備調査報告書

平成 18 年10月
(2006 年)

独立行政法人国際協力機構
無償資金協力部

無 償

J R

06-241

アンゴラ国
「ルアンダ医療専門学校拡充計画」
予備調査報告書

平成 18 年10月
(2006 年)

独立行政法人国際協力機構
無償資金協力部

序文

日本国政府は、アンゴラ政府の要請に基づき、「ルアンダ医療専門学校拡充計画」にかかる予備調査を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施しました。

当機構は、平成18年8月21日から平成18年9月14日まで予備調査団を現地に派遣しました。

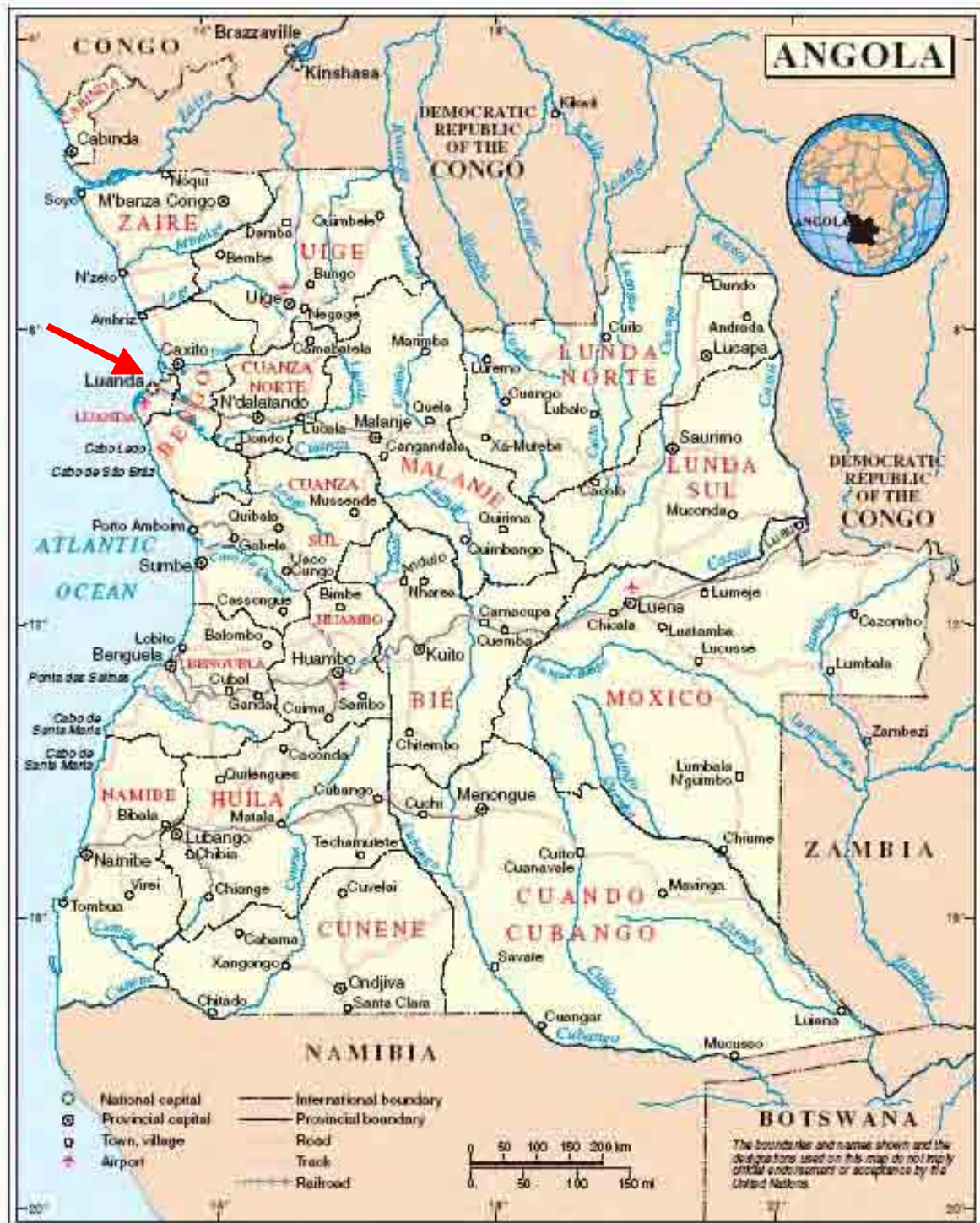
この報告書が、今後基本設計調査の実施の可否を検討する上での参考資料として、関係者間で活用されれば幸いです。

終りに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成18年12月

独立行政法人国際協力機構
無償資金協力部
部長 中川 和夫

アンゴラ国地図



Map No. 2227 Rev. 3 UNITED NATIONS
January 2004

Department of Peacekeeping Operations
Cartographic Section



保健省（MOH）：関係者協議



ルアンダ医療専門学校：学校関係者との協議



ルアンダ医療専門学校：中庭



ルアンダ医療専門学校：使用されていない講堂内部、天井に雨漏り跡や亀裂が見られる



ルアンダ医療専門学校：講堂外観



ルアンダ医療専門学校：避難民に占拠された宿舎



ルアンダ医療専門学校：13台のパソコンが整備された教室（MOH予算）



ルアンダ医療専門学校：一般教室（補習授業中）



ルアンダ医療専門学校：階段教室（MOH購入の新品机・椅子）



ルアンダ医療専門学校：物理療法用機材（EU援助による）



ルアンダ医療専門学校：新品の人体解剖模型等（ポルトガルの援助による）



ルアンダ医療専門学校：新品の人体解剖模型等（ポルトガルの援助による）



ルアンダ医療専門学校：一ヶ月前に改装されたラボにMOH予算で整備された機材（卓上遠心器：ブラジル製）



ルアンダ医療専門学校：同左（スペクトロフォトメーター、PHメーター）



ルアンダ医療専門学校：同上（ウォーターバス、卓上遠心器）



ルアンダ医療専門学校：同上（カメラ・モニター付き顕微鏡、冷蔵庫）



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部：外観



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部：事務長との協議



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部：宿舎（7人部屋）



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部：講堂（約160人用）



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部建物内ETPS：助産師実習室機材



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部建物内ETPS：助産師実習室機材



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部建物内ETPS：助産師実習室機材



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部建物内ETPS：助産師実習室機材



ルアンダ総合病院：建物外観（中国の借款で建設され、2006年開院現在は外来のみ行っている。）



ルアンダ総合病院：建物内部



ルアンダ総合病院：一般X線撮影装置（機材は殆ど中国製）



ルアンダ総合病院：手術室



ルアンダ総合病院：分娩室



ルアンダ総合病院：歯科ユニット



イリヤ（ILHA）ヘルスセンター：建物外観（日本の機材整備援助を受けている。）



イリヤ（ILHA）ヘルスセンター：分娩台（供与機材）



アゴスチーニョ・ネト大学看護学部建物が有る敷地（保健省所有）：敷地の一部ではすでに私立大学の建設工事が進んでいる。



ディビーナ・プロビデンシア病院：外観



ディビーナ・プロビデンシア病院：薬局



ディビーナ・プロビデンシア病院：検査部



ディビーナ・プロビデンシア病院：小手術室



ディビーナ・プロビデンシア病院：滅菌器



ディビーナ・プロビデンシア病院：一般X線撮影室



ヘルス・ポスト（ディビーナ・プロビデンスシア病院管轄区域）：入口（看板は無い）



ヘルス・ポスト（同左）：患者待合いホール



ヘルス・ポスト（ディビーナ・プロビデンスシア病院管轄区域）：検査室



ヘルス・ポスト（同左）：ワクチンコンテナ



キランバ・キラシ群病院（母子保健専門病院）：中庭



キランバ・キラシ群病院：一般X線撮影室



キランバ・キラシ群病院：検査室



キランバ・キラシ群病院：薬局



ルバンゴ医療専門学校：校長との協議



ルバンゴ医療専門学校：普通教室



ルバンゴ医療専門学校：講堂



ルバンゴ医療専門学校：看護実習室



ルバンゴ医療専門学校：人体解剖模型



ルバンゴ医療専門学校：中庭



ルバンゴ医療専門学校：検査室機材（未使用）



ルバンゴ医療専門学校：レクチャー室



ルバンゴ医療専門学校併設ヘルスセンター：外観



ルバンゴ医療専門学校併設ヘルスセンター：検査室



ルバンゴ医療専門学校併設ヘルスセンター：一般X線診断装置



ルバンゴ医療専門学校併設ヘルスセンター：分娩室



ルバンゴ医療専門学校併設ヘルスセンター：保育器（未使用）



ルバンゴ・チオコヘルスセンター：外観



ルバンゴ・チオコヘルスセンター：患者待合い



ルバンゴ・チオコヘルスセンター：処置室



イリヤ (ILHA) ヘルスセンター：乾熱滅菌器（供与機材）



イリヤ (ILHA) ヘルスセンター：一般X線撮影装置（供与機材）



ジョシナ・マシェル病院：建物正面外観（アンゴラ国旗と共に日本国旗が掲げられている。）



ジョシナ・マシェル病院：専門外来棟



ジョシナ・マシェル病院：救急検査室



ジョシナ・マシェル病院：中央滅菌部



ジョシナ・マシェル病院：CTスキャナー（保健省予算で購入）



ジョシナ・マシェル病院：院内食堂

略語表

ADB	: Asia Development Bank	アジア開発銀行
BCG	: Bacille de Calmette et Guérin	結核予防ワクチン
DPT	: Diphtheria, Peruses and Tetanus	三種混合ワクチン
ETPS	: Escola Tecnico Profissionalizante de Saude	医療専門学校
ETPS/L	: Escola Tecnico Profissionalizante de Saude Luanda	ルアンダ医療専門学校
ETSSAU	: Escola Tecnica dos Servicos de Saude e Assistencia do Ultramar	保健サービス・海外支援技術学校
EU	: European Union	ヨーロッパ共同体
IMS	: Instituto Medio de Saude de Luanda	医療中等専門学校
UNFPA	: United Nations Population Fund	国連人口基金
UNICEF	: United Nations Children' s Fund	国連児童基金
USAID	: United States Agency for International Development	米国国際開発庁
WB	: World Bank	世界銀行
WHO	: World Health Organization	世界保健機関

目次

地図

写真

略語表

第1章 調査概要	1
1. 要請内容	1
2. 調査目的	1
3. 調査団の構成	2
4. 調査日程	2
5. 主要面談者	3
6. 調査結果概要	5
6.1 先方との協議結果.....	5
6.2 現地調査結果.....	6
6.3 結論要約	8
第2章 要請の確認	10
1. 要請の経緯	10
2. 要請の背景	12
3. サイトの状況と問題点.....	27
4. 要請内容の妥当性の検討.....	33
第3章 結論・提言	40
1. 協力内容スクリーニングの結果.....	40
2. 協力内容スコーピングの結果.....	41
3. 基本設計調査に際し留意すべき事項等.....	43
添付資料	
1. 署名レター	A-1
2. 詳細協議議事録.....	A-5
付属資料	
1. ETPS/L 教育カリキュラム	A-15
2. 計画地の位置	A-23

3. 既存建物配置図.....	A-24
4. 既存建物平面図.....	A-25
5. 建物の現状	A-27
6. 将来計画図	A-28
7. 屋根の現状	A-29
8. 要請施設	A-30
9. 施工単価	A-32
10. 免税手続きに関する書面.....	A-33

添付資料

1. 署名レター
2. 詳細協議議事録

付属資料

1. ETPS/L 教育カリキュラム
2. 計画地の位置
3. 既存建物配置図
4. 既存建物平面図
5. 建物の現状
6. 将来計画図
7. 屋根の現状
8. 要請施設
9. 施工単価
10. 免税手続きに関する書面

第 1 章 調査概要

第1章 調査概要

1. 要請内容

2005年6月アンゴラ国（以下「ア国」と略す）からの要請は、首都ルアンダにある州政府が管轄するルアンダ医療専門学校（以下、同学校のポルトガル語名であるEscola Técnico Profissionalizante de Saúde Luandaの略称「ETPS/L」と略す）に対する施設改修及び機材の調達である。

要請内容の概略は次の通りである。

(1) 施設整備

表1に示すとおり要請施設は管理・教室棟、講堂及び寄宿舎である。総額概算は要請書に記載されていないが、我が国の無償資金協力案件の実績ベース単価では約6.12億円になる。

表1 要請施設の面積

	棟名	延べ床面積 (m ²)	概算金額
1	管理・教室棟(2階建て)	2,718.06	291百万円
2	講堂(1階建て)	373.61	40百万円
3	寄宿舎棟(5階建て)	2,626.81	281百万円
	合計	5,718.81	612百万円

(2) 機材整備

表2に示すとおり主要なものとしては、検査機材、人体解剖模型、X線診断装置等があるが、その他に事務関係機材、机椅子等の家具類等の汎用機材も多い。総額概算は約58百万円となるが、その内汎用機材は約40百万円となり全体の7割弱を占めている。

表2 要請機材概要表

	要請部門名	主要機材	概算金額
I	オーディオ・ビジュアル	ビデオカメラ・レコーダー、CCTV等の音響・画像機器	1,250万円
II	事務	コピー機、製本機	55万円
III	特別訓練(パソコン)	パソコン、液晶プロジェクター等	450万円
IV	講堂	机、椅子	800万円
V	一般教室	机、椅子、白版等	690万円
VI	宿舎	ベッド、ロッカー等	500万円
VII	食堂	机、椅子	35万円
VIII	厨房	冷凍庫、炊飯器等	300万円
IX	図書室	机・椅子、ラック等	150万円
X	X線診断、他	X線診断装置等	700万円
X	人体解剖模型等	骨格標本、心肺蘇生モデル等	280万円
X	検査部	蒸気滅菌器、血球カウンター	230万円

2. 調査目的

本予備調査は、本件の必要性、妥当性を検証すると共に、無償資金協力案件として適切な基本設計調査を実施するため、調査対象、調査内容、調査規模等を明確にすることを目的とする。

3. 調査団の構成

担当	氏名	所属
官団員		
1 団長	吉新 主門	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 無償資金協力部業務第2グループ 保健医療チーム チーム長
2 技術参与	野田 信一郎	厚生労働省国立国際医療センター 国際協力局
3 計画管理 1	泉田 隆史	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 無償資金協力部業務第2グループ 保健医療チーム
4 計画管理 2	須賀 美智子	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 南アフリカ事務所
コンサルタント		
5 保健医療/ 教育計画	赤木 重仁	アイテック株式会社
6 施設/ 設備計画	池田 純	ユニコインターナショナル株式会社
7 機材計画	五代儀 和彦	有限会社ジェイテック
8 通訳	亀山 砂江子	財団法人国際協力センター

4. 調査日程

日付	官団員				コンサルタント			
	団長	技術参与	計画管理 1	計画管理 2	保健医療/ 教育計画	施設/ 設備計画	機材計画	通訳
	吉新主門 11日	野田信一郎 11日	泉田隆史 11日	須賀美智子 11日	赤木重仁 25日	池田純 22日	五代儀和彦 22日	亀山砂江子 25日
1 8/21 月					成田発→香港→			
2 8/22 火					ヨハネスブルグ→ルアンダ ^o 着 保健省表敬・協議			
3 8/23 水					ETPS/L 調査			
4 8/24 木					Agostino Net 大学付属看護学部調査 UNFPA 協議 ETPS/L 調査 UNFPA 協議			
5 8/25 金					USAID 協議 ETPS/L 調査 保健省人材局協議			
6 8/26 土					ヘルスセンター調査			
7 8/27 日					団内会議			
8 8/28 月					保健省人材局協議			
9 8/29 火					Divina Providencia 病院調査、Kiranba Kicsh 病院調査、保健省協議			
10 8/30 水	成田発→シカゴ ^o →ル→				ルアンダ ^o →ルバ ^o ンゴ ^o ルバ ^o ンゴ ^o ETPS、ヘルスセンター調査			
11 8/31 木	ヨハネスブルグ→ルアンダ ^o 着 大使館表敬				ヘルスセンター調査、ルバ ^o ンゴ ^o →ルアンダ ^o 大使館表敬			
12 9/01 金					ETPS/L 調査・協議			
13 9/02 土					ルアンダ ^o 州病院調査			
14 9/03 日					団内会議			

日付	官団員				コンサルタント				
	団長	技術参与	計画管理 1	計画管理 2	保健医療/ 教育計画	施設/ 設備計画	機材計画	通訳	
	吉新主門 11日	野田信一郎 11日	泉田隆史 11日	須賀美智子 11日	赤木重仁 25日	池田純 22日	五代儀和彦 22日	亀山砂江子 25日	
15	9/04	月	ヘルスセンター、シヨシナマシエル病院調査						
			ETPS/L 協議		EU 協議	ETPS/L 協議			
16	9/05	火	保健省協議						
			ETPS/L 協議						
17	9/06	水	保健省報告						
			大使館報告						
18	9/07	木	ルアンダ→ヨハネスブルク				ETPS/L 調査		
					FAS 協議	ETPS/L 調査			
						FAS 協議			
19	9/08	金	ヨハネスブルク→シンガポール		州保健局協議	建設会社調査	医療機材会社調査	州保健局協議	
					保健省協議	調査		保健省協議	
20	9/09	土	シンガポール→成田		補足調査	ルアンダ発→ヨハネス着		補足調査	
21	9/10	日					団内会議	ヨハネス→	団内会議
22	9/11	月					保健省協議	香港→成田着	保健省協議
23	9/12	火					ルアンダ発→ヨハネス着		ルアンダ発→ヨハネス着
24	9/13	水					JICA 南ア事務所報告		JICA 南ア事務所報告
							ヨハネス発→		ヨハネス発→
25	9/14	木					香港→成田着		香港→成田着

5. 主要面談者

(1) 在ア国日本大使館

柴田進
高橋光男

特命全権大使
三等書記官 経済協力・広報文化担当

(2) JICA 南ア事務所

木村洋
須賀美智子
Mr. Mateus Matamba ERNESTO

次長
企画調査員
ア国連絡員

(3) ア国保健省

Mr. Augusto Rosa Neto
Dr. Evelize Fresta
Dr. Constantina Furtado
Mr. Mutondo Mavunza
Mr. Martinho Luemba
Mr. Manuel Sebastiao
Dr. Basilio Cassoma
Mr. Abandole Atete Emanuel

国際協力局長
人材局長
人材局 人材養成部長
人材局 人事管理部
人材局 教務課
人材局 教務課
調査企画統計局長
調査企画統計局 企画部長

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| Mr. Andre Jamba | 調査企画統計局 投資部長 |
| Mr. Miguel Guedes | 調査企画統計局 技術アシスタント |
| (4) ルアンダ 医療専門学校 (ETPS/L) | |
| Dr. Lino Silili | 校長 |
| Dr. Henriqueta da Silva Tavares | 事務財務担当副校長 |
| (5) ヘルスサイエンスコンプレックス (CCS) | |
| Mr. Miguel M. Mendes Junior | 事務局長 |
| (6) Josina Machel 中央病院 | |
| Dr. Kimfumu Antonio | 院長 |
| (7) ルアンダ 州病院 (総合病院) | |
| Dr. Ambrosio Capapinha | 院長 |
| (8) Divina Providencia 郡病院 | |
| Dr. Manuel Antonio Dala | 院長 |
| Dr. Jacob A. Tonon | 事務局長 |
| Mr. Andre Francisco Songue | 人材部長 |
| Mss. Nzunba Tandu | 看護師長 |
| (9) Kilamba Kiaxi 郡病院 | |
| Dr. Antonio N' zuzi | 院長 |
| (10) Ilha (イーリャ) ヘルセンター | |
| Dra. Tereza Matias | 院長 |
| Mr. Antonio Manuel | 事務局長 |
| Mss. Victoria Vasco F. Adao | 事務員 (保健省) |
| (11) ルハンゴ 医療専門学校 | |
| Dr. David Domingos Luis | 校長 |
| (12) UNFPA | |
| Dr. Julio Leite da Costa | 次長 (Assistant Representative) |
| Mr. Jose Ribeiro | 人口および開発方針担当員 |
| Mr. Paulo Muzuza | 青少年リプロダクティブヘルス/HIV (コンサルタント) |
| Mss. Gisele Guimaraes | 産科合併症コースアセスメント (コンサルタント) |
| Mss. Gabriela Simas | ジェンダー・リプロダクティブヘルス (コンサルタント) |

(13) USAID

Mr. Alonzo Wind	Director, General Development Office
Dr. Angus Spiers	Senior Malaria Program Specialist

(14) EU

Mr. Mauro Di Veroli	社会インフラ開発セクター インフラ専門家
Dr. Rau; Feio	保健分野専門家

(15) 建築会社

Mr. Manuel Mateus	FMC Construcao
Mr. Sebastial Sa	Eusebios

6. 調査結果概要

6.1 先方との協議結果

(1) 要請内容の絞り込み

本予備調査は 2005 年 6 月にア国政府から提出された要請書に基づき、ア国関係者と協議を行ったが、最終要請の内容確認を行ったところ、実施機関である ETPS/L は要請内容の詳細を十分把握しておらず、中央保健省が主導で案件を取りまとめていたことが判明した。ETPS/L に対し、現状を踏まえて最終的な要請内容を確認すべく協議を進め、最終的には学校側の要請に基づき妥当性の検討を行った。

(2) 調査結果の概略

現地調査を通して要請内容の絞り込みを行った結果、以下が確認された。

保健省と教育省の間で ETPS/L の制度整備、医療従事者の養成期間、教育内容等について、調整が続いており、対象となる学校の役割、輩出される人材のグレード設定についてもア国として整理がされていない。従って現在の同校の位置づけは ETPS/L としてではなく、正式には過去に登録されている医療中等専門学校のままであり、授業内容のみが保健省による新たなプログラムで進められていることが確認された。

施設については、保健省予算により学校運営に必要な教室、検査室を含む実習室、事務室、図書室、食堂はすでに改修済みであること、今後の教室不足に対しても、未改修の教室の小規模な改修により対応可能であること、要請内容に対して未改修部分の講堂及び寄宿舎については、講堂は小規模な工事で改修可能であり、寄宿舎は不法占拠されたままで手がつけようのないことが確認された。

機材についても保健省予算とポルトガル、EU の支援により、要請機材（検査部機材、人体解剖模型等、汎用機材等）の 8 割以上が整備済みであることが確認された。

以上の結果を踏まえ、調査団から先方保健省へ書面（添付資料-1 を参照）を発出することとした。無償資金協力の次のステップである基本設計調査の実施については、今回の予備調査結果を日本側で分析、検討した上、最終的な実施の可否について、ア国側に通知する旨説明した。

6.2 現地調査結果

(1) ETPS/L の活動状況

ETPS/L の開設は、「人材開発計画 1997/2007」による保健医療人材改革プロジェクトの一環として位置づけられている。同プロジェクトは、全国に各地域を管轄する 5 校の医療専門学校を新設することとしている。ETPS/L の管轄は保健省であるが、ア国では地方分権化が進んでおり、ETPS/L の活動内容については保健省人材局が指導をし、予算についてはアングラ州政府が管理している。ETPS/L は、教育と研究活動を行うことを目的とし、以下の 4 項目の人材養成を行っている。

- * 新規養成コース（臨床検査技師、病理解剖技師、心肺技師、薬剤師、理学療法士、栄養士、放射線技師）
- * 専門課程コース（看護：麻酔蘇生看護、集中治療看護、精神看護、器械出看護）
- * 昇級コース（臨床検査技師、看護師、口腔外科、薬剤師、理学療法士、整形外科技師、放射線技師）
- * 継続教育コース

新規養成コースについて保健省は当初 12 コースを想定していたが、2006 年の開校時には 9 コースを目標とすることで見直し、現状では 7 コースを行っている。

人材開発計画 1997/2007 によると、ア国における保健医療人材の育成について、現職職員のグレードを上げることに重点をおき、新規養成は当面行わないと記載されているが、現状のニーズに合わせて、ETPS/L においては新規養成コースを開始している。

調査段階において ETPS/L に入学している学生数は 548 名、職員は 145 名（医療職 87 名、事務職 58 名）である。

(2) 施設の状況

1) 敷地

ETPS/L が所在する敷地はアングラ市の中心部に位置しており、我が国の無償資金協力により改修されたジョシマシェル病院に近接している（付属資料 2）。敷地の周囲は全て塀により外部と区画されている。高低差のある敷地内には講義棟、講堂及び寄宿舎が配置されている。寄宿舎は内戦時の国内避難民が不法に占拠しており、寄宿舎としては利用されていない。保健省は彼らの居住を認めてはいないが退去しない状況から、学校は寄宿舎の近傍に塀を設けて学校側に居住者が侵入できないようにしている。学校側の説明によると寄宿舎の 1 階をぬけた空き地（プールやテニスコート）は使用できるとのことであるが、治安上の理由等から現実的には困難である。

2) 既存建物

既存建物は講義棟、講堂及び寄宿舎から構成されており、現状は付属資料のとおりである。[建物の配置図（付属資料 3）、平面図（付属資料 4）、現況写真（付属資料 5）、既存建物一覧表（表 3）]

表3 既存建物一覧表

棟名	構造	階数	用途	現状
A棟	RC造	3階建	教室、実習室、食堂、教員室、事務室等	1教室を除き使用上の問題はない。
B棟	RC造	2階建	教室、実習室	教室及び実習室は使用されていない。外部廊下の天井（庇状のスラブ）はコンクリートの剥落及び鉄筋の腐食が発生している。教室内の漏水は顕在化していない。
C棟	RC造	1階建	教室、実習室、資料庫	教室及び実習室は改修が完了しており使用上の問題はない。資料庫は使用されておらず、物置状態。
D棟	RC造	1階建	図書室、事務室、講堂	図書室は改修が完了している。他は改修により発生した机類が廃棄されており、物置状態。漏水やクラックが発生している。
寄宿舍	RC造	地下1階 地上5階建	元寄宿舍。現在は個人住居	難民が不法占拠。エレベーターは稼働していないが内部は整理整頓されている。

(注) RC造：鉄筋コンクリート造

建物の現状に関して、A棟及びC棟を除き各棟の屋根防水を外観する限り老朽化は進行しており、屋根の老朽化は顕在化している。

(3) 機材の状況

現地視察調査の結果、表4のとおり要請機材の主要部分が保健省予算やポルトガル、EUの援助ですでに購入整備されている事が判明した。また学校の現状として緊急的に整備が必要と思われる機材は特に見られず、当面の運営には支障がないと思われる。

表4 整備済み機材一覧表

	機材名	調達方法	要請の有無等	備考
1	検査部機材	保健省予算	元要請の約100%を占める (蒸気滅菌装置等を除く)	2004年に購入済み
2	人体解剖模型等	ポルトガルの援助	元要請の約40%を占める	
3	パソコン、教室机、椅子	保健省予算	元要請の約60%を占める (パソコンは68%を占める)	
4	物理療法機材	保健省予算、EU援助	元要請に無し	
5	口腔外科用 デンタルユニット	ポルトガルの援助	元要請に無し	

(4) 関連施設の視察結果

ルアンダの南方700kmに位置するウィラ州の州都ルアンゴに、世界銀行の支援によるプロジェクトが1999年に完了した。このプロジェクトで医療専門学校（以下、ルアンゴETPSと略す）、医療センター、医療機材メンテナンスセンター、教員宿舍及び寄宿舍の建設が図られたが、資金不足のため教員宿舍及び寄宿舍は建設されなかった。ルアンゴETPSは唯一教育省より中等レベルの教育機関として認定されたが、予算制約のためルアンゴETPSも規模が縮小されており、400人の計画定員に対して現在の学生数は139人に

とどまっている。また、専門学校は教室が 3 教室、看護実習室は 2 教室、実習室は 2 教室となっているが、機材が設置されていない実習室もある。将来の規模拡大を前提に計画されている（付属資料 6）。

(5) ルンダ 医療専門学校における国際機関や他ドナーの支援の状況

機材については上述(3)のとおり、ポルトガル政府及び EU による支援を受け、整備済みである。また、保健省は 2003 年 4 月 11 日にリスボン保健技術高等学校 (Escola Superior de Tecnologia de Saúde de Lisboa) と協定を結び、ETPS/L の校内実習を充実させることとしている。

6.3 結論要約

案件の必要性・妥当性について

(1) 人材育成の観点から

ア国における保健医療人材の養成は急務である。「人材開発計画 1997/2007」において量的な拡充だけではなく、人材の質的向上に重点をおいている点は妥当であると判断される。医師不足は外国人医師の活用である程度補っているが、看護師や助産師、パラメディカルのレベル向上を優先する戦略は不可欠である。

しかしながら、ETPS/L で開講されている臨床検査技師、放射線技師、歯科技工士、歯科衛生士といった専門コースにおいては、卒業後の就職先となる医療施設の機材整備状況によっては、習得した知識・技術の活用が行えない可能性がある。直接、地域住民に裨益する 1 次医療施設であるヘルセンターにおいては、マラリア原虫の検査やごく初歩的な検査程度しか実施する環境になく、臨床検査においては ETPS/L でカリキュラムに含まれている生化学検査、血清検査、細菌培養、ウイルス検査等の知識は活用することが出来ない。

感染症が主要疾患の上位を占めている保健指標を見る限り、現状においては地域医療で優先されることは 1 次医療と思われ、ETPS/L で学んだ知識と技術が役立つレベルは 3 次医療を受けられる限られた住民となる可能性がある。

(2) 施設計画

要請施設は本館（教室、実習室、運営管理室、図書室及び食堂）、講堂及び寄宿舎から構成されている。要請書には概算事業費の記載はないが、現時点での概算は総額で約 6.12 億円程度となる。しかし、ア国政府の自助努力により要請施設のうち、大半が既に改修を完了しており運用上支障がなく、また現在不足している教室及び実習室の床面積や室数も小規模のため、小額の予算で未改修部分を改修することにより対応できること、講堂は小規模な工事で改修可能であり、寄宿舎は不法占拠されたままで手のつけようのないことが確認された。

(3) 機材計画

機材の要請内容については、優先順位の高いものから優先度 A, B, C として 3 つの
カテゴリーに区分した。(詳細は第 2 章「4.2 要請内容の妥当性の検討」及び添付資
料-1「署名レター」を参照)

要請機材から整備済み機材を削除し、さらにベッド、家具、事務機器、AV 機器等の
汎用機材を優先度 C として削除すると、優先度 A, B の概算金額は約 8.5 百万円となり、
元要請金額約 58 百万円の約 16 %程度となる。更に、X 線診断装置等は病院での実習
で代替可能と判断されることからこれらを削除すると、高圧蒸気滅菌装置、血球カ
ウンター等の検査機器、人体解剖模型の一部などであり、1.5 百万円程度となる。これ
はア国保健省の自助努力で十分可能なものと判断される。

以上の状況を踏まえた場合、協力の必要性、妥当性は高くないと判断されるどころ、
実施の可否については、慎重に検討する必要があるものとする。